

前立腺生検を受けられる方へ(1泊2日)

	準備	当日		1日後(退院予定)
		術前	術後	
達成目標	＜持ち物＞ 承諾書 和式のねまき (レンタルを使用される場合はガウンタイプを使用) その他、入院のしおりをご参照ください	①不安が表出できる ②治療の目的を理解することができる ③合併症の内容を理解できる	①痛みがない ②血尿の程度が基準値を超えない ③麻酔の合併症がない ④尿の管が閉塞しない	①血尿の程度が基準値を超えない ②排尿管理方法は問わず自力で排尿管理が出来る
注射	＜食事制限＞ 入院前日21時以降食べ物は食べないでください	絶飲食のため点滴を行います。	点滴があります。	
処置	(水・茶のみ 入院当日6時まで可)	ねまきに着替えます。 弾性ストッキングを履きます。 点滴の針を入れます。		早朝(5時頃)尿道カテーテルを抜きます。 7時頃:排尿をしてください 排尿後、 残尿測定を行います。
検査	＜内服薬＞ 定期的内服薬はいつも通り内服して下さい。 ＊糖尿病薬や抗凝固薬については医師の指示に従って下さい。			早朝採血があります。
安静度	外来で処方されている「レボフロキサシ錠」を入院1日前から内服してください	特に制限はありません。 	術後はできるだけベット上で安静にしてください。 洗面・トイレ歩行のみ可能です。	特に制限ありません。
食事/水分		食事:絶食です 水分:朝6時以降絶飲です。	食事:夕食から食べることが出来ます。 水分:帰室後から飲むことができます。(水・茶) ＊帰室直後は看護師がお手伝いします。	特に制限はありません。
留置物		点滴針を留置します。	点滴終了後も針は留置したままです。 尿道カテーテルが留置されています。翌日の朝抜く予定です。	尿道カテーテルを抜きますが、医師の判断で再留置する場合があります。 点滴の針を抜きます。
観察			痛みについて伺います。(下腹部痛・頭痛) 血尿の程度や尿の流出具合を観察します。 発熱の有無を確認します。	尿道カテーテルを抜いた後、排尿があるか確認します。 排尿がなければ、尿道カテーテルを留置した状態で退院となります。
薬剤		お薬手帳を確認します。 外来で処方されたお薬の服用状況を確認します。		抗生剤の処方があります。
説明		処置の流れを説明します。承諾書を提出してください。	下腹部痛や頭痛、嘔気があればお知らせ下さい。 生検後は水分を多めにとる用になってください。(尿の流出を促すため)	＜自宅での注意点＞ をご参照下さい 

※患者様の状態によって変更する場合がありますのでご了承ください。尚、ご不明な点がございましたら看護師までお尋ねください。
※入れ歯、ジェルネイル、カツラ、つけまつげ、アクセサリ、コンタクトは手術当日、処置等で必要な際は取り外しをお願いします。
また入院中のお化粧品は控え下さい。

前立腺生検を受けられた方へ

退院後の注意点

<入浴について>

入浴できます

<創部にカットバンが残っている場合>

入浴時に除去してください。

再びカットバンを貼る必要はありません。

<生検後の血尿>

しばらくの間、下着に血液が付着したり、尿に血がうっすら混ざったり、精液に血が混じることがあります。出血量が増加する場合は病院にご相談下さい。

痛みを感じる場合があります。痛み止めを使用して下さい。内服が効果ないほど痛みが増加する場合は病院にご相談下さい。

発熱する場合があります。38度以上の発熱の場合は病院にご相談下さい。

排尿障害が出現する事があります。尿意があるのに排尿できない場合や排尿が4時間以上経過しても見られないときは病院にご相談下さい。

<尿道カテーテルを留置して帰宅となった場合>

前立腺生検後、排尿しにくい状態となっています。次回受診まで一時的に尿道カテーテルを留置します。尿道カテーテルは抜けない構造になっていますが、きつく引っ張ったり、引っかかると抜けることがあります。注意して過ごしましょう。

・排尿方法

①手を洗う

②トイレの便座に座り尿道カテーテルのキャップを外す。

③排尿終了したらキャップをする。

④手を洗う

・排尿のタイミング

尿意を感じたとき

前回の排尿から4時間経過したとき(夜間の対応は退院時お伝えします)

・以下の様な場合は病院へ連絡してください

尿が出ない: 尿道カテーテルが詰まっている可能性があります。

血尿が止まらない: 場合によっては止血処置が必要になります。

尿道カテーテルが抜けてしまった:

場合によっては尿道カテーテルを入れ直す必要があります。